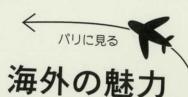
『東京大学新聞』 (週刊) 第2264号、2004年7月13日、p.3.

回は、



は語る。実際に都市を訪れ

い体験です」と今橋助教授

に訪れることでしかできな

慣を体験することは、実際

いる景観や価値観、生活習

るという。「都市がもって 化を肌で感じることができ

歩くと、その都市固有の文

研究科)に話を聞いた。 今橋映子助教授(総合文化 都市の文化を研究している いて、パリと東京を題材に 出かける計画を立てている る。夏休みには海外都市に 感できる魅力がたくさんあ へも多いだろう。そとで今 都市には、 海外都市の魅力につ 訪れてこそ実 は必要ですね とも、都市を訪れたときに ど様々な面で食い違うこと みや、使われている言葉な 「とのギャップを楽しむと に気づくことができる。 の都市のイメージが、町が を通して作り上げられたそ 今橋助教授が主に研究対 ることで、様々なメディア パリの都市としての魅力

が多く、パリの食文化に気 としての魅力を存分に兼ね 備えている。たとえば、パ 象としているパリも、都市 う市内にはカフェやパン屋 ップ楽しむのが 異国都市の魅力

ら今年は海外マスタ

「観光心理学」のパスポートを手に、これであ

海外に行くことの意義はどこにある

集する。そもそも人を旅行に駆り立てるのは何

一度は経験してみたい「変わり種」

ボランテ

外旅行先や留学先としてフ と今橋助教授は語る。 大変過ごしやすいんです」 そっけないわけでもなく、 日本とパリの関係 現在でこそ多くのよ かといって 一馴れ馴れ 介が海 め、留学先として最適だっ たのでしょう」 美術館が充実しているた が優れています。図書館、 け、情報を公開するセンス 統があり、知の蓄積に長 になる。 まった。 からフランスに渡る留学生 1900年代当初、日本

いう。また、様々な人種の 軽に触れることができると 気があったわけではない。 ランスを選ぶが、昔から人

にその都市に出かけて街を 化がすべて集中する。

都市の魅力

都市には、

周辺地域の文

実際

10日間なんてあっという 気で家族と仲良くなれた。

日本に帰りたくなかっ

短期間でも、フィリピン

が発展していた都市の中で だったわけではないという 歴史を持つため、都市生活 人々が暮らしていながら 人種差別はそれ程顕著 おり、普仏戦争で負けて政 ツ、イギリスを手本として 経済の面でそれぞれドイ 明治維新期の日本は政治、

の間に適度な距離が保たれ も、パリはとりわけ、

ていなかった。 スのことはそれほど重視し 治的地位の低かったフラン

対して抱いていたネガティ 南アジアの貧困層の人々に ったことで、以前自分が東 に行って現地の人と触れ合

にとって目を離せない場所 して、パリは今後も日本人

時代の文化都市の在り方と

であり続けるでしょう」

を機に、日本はフランスを

い層の人々が留学するよう と、画家や音楽家など幅広 かし1920年代に入る 今橋助教授はこう

帝国であったパリの歴史的 現代におけるパリ 「しかし、 19世紀植民地

その影は21世紀の現在、多 心」と今橋助教授は言う。 裏面を忘れてはいけませ

場末や郊外で深刻な問題と くの外国人移民との共存の だしさとして、特にパリの

その一方でフランスの文化 して表出しているという。

行政は、「パリ」とその文化

けており、それが文化保護 を有効に演出する技にも長

ら、遠く離れた多文化共存 る観光地としての憧れか につながっている。「単な

ているという。 しいわけでも、

は、文部省から送られたエ リートが中心であった。

り入れようとする動きが広 などにフランスの文化を取 文化発進の国として注目す

るようになり、哲学や文学

分析する。「フランスは伝